

#1主を愛し、互いに愛し合う—キリストのからだとしての召会の有機的な建造のために、私たちが何であっても、何を行なっても、主を愛し、互いに愛し合うことが最も卓越した道であるBird's eye view 12/12-18パウロはテサロニケ人に次のように告げて彼らを称賛しました、「あなたがたの信仰が大いに成長して、あなたがた一同、一人一人の相互の愛が増し加わっている」(2テサロニケ1:3)テス3:15 私と共にいる者たち一同が、あなたによろしく。私たちが信仰の中で愛している人たちによろしく。恵みがあなたがた一同と共にありますように。A主を信じることは、主を命として受け入れることです。主を愛することは、私たちが受け入れたこのパーソンを享受することです。信仰が神によって私たちに与えられているのは、私たちが信仰によってキリストを私たちの命として受け入れるためです。愛は、このようなすばらしい信仰から出てくるものであって、私たちが、私たちの命としてのキリストの中で、三一の神の豊富すべてを生かし出すことができますようにします。B使徒パウロにとって、「主の恵みは、キリスト・イエスにある信仰と愛を伴って、際限なく満ちあふれるようになりました」(1テモテ1:14)。私たちは信仰を通して主を受け入れ、愛を通して私たちが受け入れた主を享受します。Cこのすばらしい信仰の中で、またこの三一の神の超越して卓越した愛によって、私たちは神と神に属するすべての人々を愛するべきです。私たちは、このようにしてはじめて、召会の墮落の潮流の中で、主が啓示録2章と3章で召しており、得ようと願っている勝利者となることができます。

II主の回復は、初めの愛、最上の愛をもって主イエスを愛することの回復であり、また互いに愛し合うことの回復であり、キリストの有機的なからだの建造のためです。それは、神の永遠のエコノミーの目標としての新エルサレムを建造することです。A私たちが愛するキリストは、召会を愛するキリストです。私たちはキリストを愛するとき、キリストが愛するように召会を愛するようになります。エペソ5:25 夫たちよ、キリストが召会を愛して、彼女のためにご自身を捨てられたように、あなたがたの妻を愛しなさい。B召会の墮落は、私たちが主に対する初めの愛を離れることから始まります。初めの愛、最上の愛をもって主を愛することは、万物のうちで首位、第一位を主に与えて、主の愛によって押し迫られて、主を私たちの生活のすべてと考え、すべてとすることです。2コリント5:14-15 なぜなら、キリストの愛が私たちに押し迫っているからです。そこでこう判断しました。ひとりの方がすべての人のために死なれたからには、すべての人が死んだのです。そして、彼がすべてのために死なれたのは、生きている者が、もはや自分自身ではなく、彼らのために死んで復活させられた方に生きるためです。

C私たちが主イエスを信じた時に受け入れた命は、パーソンです。そして、このパーソンを適用し享受する唯一の道は、初めの愛をもって彼を愛することによってです。私たちの命としての主イエスはパーソンであるので、この瞬間に、また日ごとに、私たちは彼との新しい接触を持って、彼の現在の臨在を享受する必要があります。1テモテ1:14 そして、私たちの主の恵みは、キリスト・イエスにある信仰と愛を伴って、際限なく満ちあふれるようになりました。D私たちは、キリストの愛によって押し流され運び去られている人にならなければなりません。神聖な愛は、大水のように私たちに押し寄せ、私たちが駆り立てて、彼に生き、彼を極みまで愛さざるを得ないようにさせるはずです。E私たちは極みまで主を愛するために、私たちの命の日の限り、神の家に住んで彼の麗しさ(愛すべきこと、楽しさ、喜ばしさ)を見つめ、神の宮で神を尋ね求めることを願い、求める者たちとなる必要があります。神を尋ね求めることは、私たちの日常生活のあらゆる事について神に尋ねることです。III同労者、長老、責任者、バイタルグループの中のすべての人たちの間で、愛がまさらなければなりません。A私たちは再生されて、神の種族、神の種類となりました。そして神は愛です。私たちは神格においてではなく、神の命と性質において神となるので、私たちも愛であるべきです。この事が意味するのは、私たちが単に人を愛するだけではなく、愛そのものであるということです。1ヨハネ4:8 愛さない者は神をまだ知っていません。なぜなら、神は愛だからです。B私たちは自分自身を神の愛の中に保ち、キリストの愛によって押し迫られて、兄弟たちのために自分の命を捨てなければなりません。C神がまず私たちが愛し、ご自身の愛を私たちに注入し、私たちの内側に愛を生み出してくださいました。私たちはこの愛をもって、彼を愛し、兄弟たちを愛します。神の中に住むことは、神ご自身である愛をもって私たちが他の人々を習慣的に愛する生活をするということです。それによって彼は私たちにおいて表現されます。1ヨハネ4:19 私たちが愛するのは、神がまず私たちを愛してくださったからです。D私たちは野心と高ぶりに警戒する必要があります。IVキリストの有機的なからだとしての召会の建造のために、私たちが何であっても、何を行なっても、愛が最も卓越した道です1コリント12:31 しかし、さらに大なる賜物を、熱心に願い求めなさい。そこで、私はさらに、最も卓越した道をあなたがたに示しましょう。A1コリント13章においてパウロによって描写された愛は、神聖な命の表現です。さらに、愛がその霊の実であるという事実は、愛の実質がその霊であるに違いないことを示しています。もし私たちが愛を持っていないなら私たちの語りかけ

は、命のない音を出す、鳴り響く鐘や騒がしいシンバルのようです。**B**愛はねたまず、いらだたず、人の悪を数えたりせず、すべてを覆い、すべてを耐え忍び、すべてを耐え抜き、最も大いなるものです。1コリント13:13 こういうわけで、永存するものは、信仰、希望、愛、この三つです。そして、その中で最も大いなるものは愛です。**C**私たちは、他の人たちに対する愛において神のようであるべきであって、何の差別もなく人々を愛するべきです。キリストによって彼の十字架を通して最初に救われた者は、紳士ではなく、死を宣告された犯罪者、強盗でした。この事は、とても意義深いのです。**E**愛の法則は、命の霊の法則によって実質化されなければなりません。それは、私たちが互いに重荷を負い合うことができるためです。しかし、もし私たちが高ぶりで満たされているなら、他の人の重荷を負うことができません。なぜなら、私たちは、自分が何者でもないのに自分をひとかどの者と考えていることによって、自分自身を欺いているからです。**F**愛の法則が私たちの内側で活動するとき、私たちは自動的にまた自然に牧者となって、私たちの父なる神の愛し赦す心と、私たちの救い主キリストの牧養し捜し求める霊を持つようになります。**G**愛の法則が私たちの内側で活動するとき、主にある私たちの労苦は愛の労苦となります。私たちはその中で「弱い人たちを支え」、「弱い者を支え」ます。「弱い人たちは、彼らの霊、魂、体において弱い人たち、あるいは信仰の弱い人たちを指しています。**H**召会生活は兄弟愛の生活です。からだは愛の中でそれ自身を建て上げます。**I**「知識は人を思い上がらせますが、愛は人を建造します」(1コリント8:1)。私たちは務めのメッセージを聞いていても、単なる知識をもって思い上がっているかもしれません。**J**神が私たちに与えた再生された霊は、愛の霊です。私たちは、今日の召会の墮落を征服するためには、燃える愛の霊を必要とします。2テモテ1:7 神が私たちに賜ったのは、臆する霊ではなく、力と、愛と、冷静な思いとの霊である...。**V**ヨハネ21章は、牧養することについての章であり、ヨハネによる福音書の完成と総括です。主はご自身の復活の後、ペテロを牧養して、彼の小羊を養い、彼の羊を牧養するよう彼に委託しました。これは、使徒の務めとキリストの天の務めを合併して、神の羊の群れ、すなわち、召会を顧みることです。この事は、キリストのからだという結果になります。ヨハネ21:16「シモンよ、あなたは私を愛するか?」。ペテロは彼に言った、「はい、主よ...」。イエスは彼に言われた、「私の羊を牧養しなさい」。**A**ペテロは主のこの委託にとっても印象づけられたので、ペテロの第一の手紙で信者たちに、彼らは羊のようにさまよっていたが、今は、彼らの魂の牧者また監督者(キリスト)に立ち

返ったと告げています。**B**ペテロは長老たちに、彼らの間の神の群れを牧養するよう勧めています。それによって、牧者の長が現れる時、彼らは、しばむことのない栄光の冠を受けます。ペテロの言葉が示しているのは、キリストの天の務めはおもにご自身の羊の群れである神の召会を牧養することであるということです。この事は、彼のからだという結果になります。1ペテロ5:2-4 あなたがたの間の神の群れを牧養しなさい...自ら進んで、神にしがたがって監督し、...熱心に監督しなさい...群れの模範となりなさい。そうすれば、牧者の長が現れる時、あなたがたは、しばむことのない栄光の冠を受けます。**C**キリストの天の務めと合併された使徒の務めの主要な目的また目標は、キリストのからだを建造することであり、キリストのからだは新エルサレムにおいて究極的に完成し、神の永遠のエコノミーを完成します。**V**詩篇22篇から24篇は一組の詩篇であり、十字架から来たるべき時代における王職までのキリストを啓示しています。詩篇22篇では、キリストの死と、彼の復活と、彼の多くの兄弟たちが彼の復活の中で生み出されて彼の召会を形成することを見ます。詩篇23篇では、復活の中の牧者としてのキリストを見ます。詩篇第24篇では、キリストの王国における来たるべき王としてのキリストを見ます。詩23:1 エホバは私の牧者であって、私には欠けるものがありません。**A**これら三つの詩篇が示しているのは、過去におけるキリストの死と復活と、将来におけるキリストの王国の中での王としての彼の再来との間に、現在における私たちの霊なる牧者であるキリストに対する享受、経験、表現があるということです。**B**...もし私たちが彼のすばらしい牧養にあずかるなら、主の回復の中に大復興、新しい復興があり、キリストの再来をもたらします。**VII**諸召会を顧み、聖徒たちを牧養することで必要とされるのは、供給する命の親密な心遣いです。2コリント7:3-4 あなたがたは私たちの心の中にあり、私たちと共に死に、共に生きるに至るからです。あなたがたに対して、私は極めて大胆になっています。私はあなたがたを大いに誇っています。私は慰めに満たされ、私たちのすべての患難の中で、喜びに満ちあふれています。**A**聖徒たちを牧養するとき、私たちは人を死なせるでしょう。この人を死なせることと、この実がないこととの原因は、親密な心遣いに欠けることです。**B**私たちがどのように実を結ぶか、どれほど実を結ぶかは、私たちに何ができるかによるものではありません。それは、私たちに親密な心遣いがあるかどうかによります。**C**供給する命は、人を温める命です。もし私たちが命を聖徒たちに供給しようとするなら、彼らに対する真の心遣い、情感に富んだ、深く、親密な心遣いを持たなければなりません。

CP1 私たちが純粋な心を持って長期的に主の御手の中で有用になるために、野心、高ぶりを対処する

III D1 私たちが長期的に主の御手の中で有用になるかどうか、また私たちが持続的に祝福をもたらすかどうかは、私たちが何を行なうことができるかにかかっているのではなく、私たちの心がどれほど純粋であるかにかかっています。私たちは純粋な心を持ち、主の回復の中で、意図、目的、動機、行動において、いかなる形のこうかつな野心からもきよめられる必要があります。**2** 高ぶりは破壊を意味します。高ぶることは、最高の愚か者になることです。謙そんは、私たちがあらゆる種類の破壊から救い、神の恵みをもたらします。**3** 私たちは主のためのどのような働きにおいても、決してかしらになろうと求めべきではありません。主の働きの中での競争心は、野心のしるしであるだけでなく、高ぶりのしるしでもあります。自分の能力、成功、完全さ、美德に言及することは、軽率な形の高ぶりです。**4** 自分自身について思うべきことを超えて思い上がることは、別の形の高ぶりです。自らを誇ること、自己を高く上げること、自己に栄光を帰すこと、自己の意志、自己を正当化すること、自己の義、虚栄をむさぼることはすべて、高ぶりの醜く卑しい表現です。ヤコブ4:6 彼はより大きな恵みを与えられます。ですからそれは、「神は高ぶる者を退け、へりくだる者に恵みを与えられる」と言っています。**5** 偉大になってもべにたくなこと、第一になっても隷になりたくなことも、高ぶりのしるしです。**6** 私たちは互いのために祈り、互いに対する親密な心遣いを持ち、互いにはぐみ養い、常に互いを覆い、互いの良い点を語るべきであり、決して互いの失敗や欠点を暴露すべきではありません。私たちは互いに赦し合い、赦されることを互いに請い求める必要があります。**7** 一方において、私たちは顧みている人々に対してははっきりとした見解を持ち、多くの識別力を持つべきです。もう一方において、私たちは霊的に盲目であるべきです。**8** ...ののしることは、相手を叱責するだけでなく、傲慢さから生じる公然の無礼や軽べつをもって、相手を深く傷つけ、踏みつけることです。**a** ののしる者は、奴隷仲間を打ちたたか者です。この事が意味しているのは、彼らが習慣的に信者仲間を虐待しているということです。ののしる者は、神の王国を継ぐことはありません。**b** ののしる言葉を聴く人は、ののしる言葉を語る人と同じ責任を負います。召会が一を維持するために、兄弟姉妹はののしる言葉に抵抗しなければなりません。

第一に野心、第二に高ぶりに警戒する必要があります。...自分の能力、成功、完全さ、美德に言及することは、軽率な形の高ぶりです。...そうではなく、常に

主にこう言ってください、「主よ、私には何の能力もなく、あなたの働きの中で何の成功もありません。さらに、私には何の完全さもありません。私が持っているものはすべて不完全です。また、私には何の美德もありません。私が持っているものはすべて失敗です」。

適用: 青少年・大学生、新人編

あなたは若い時から、あるいは新人の時から野心と高ぶりに警戒することを学んでください。警戒するとは、目を覚ましていること、いつも注意して見張っていることを要求します。このために、あなたは主と兄弟姉妹との交わりの中で、照らされた習慣的に行っている罪、欠点、短所を自分のノートに書き留めて、それらを読み返し、祈ることを勧めます。あなたの個性、頑固さ、個人主義などから来る悪い行いは、多くの場合、あなた自身は気づいていないことがあります。他の人の目からは明白でも、自分自身は気づいていないのです。ですから、照らされた罪、欠点、短所を書き留めて、読み返し、主との交わりの中で、自分の罪、欠点、短所を告白し、御子イエスの血を適用することが、交わりを深めるために必要です。特に、野心と高ぶりについて、この世的な定義や自分なりの解釈に従うのではなく、神の御言葉と聖霊の照らしの下で、自分の野心と高ぶりを照らしていただき、罪を告白してください。1ヨハネ1:8 もし、自分には罪がないと言うなら、私たちは自分を欺いているのであって、真理は私たちの中にありません。**9** もし、私たちが自分の罪を告白するなら、神は信実で義であられるので、私たちの罪を赦し、すべての不義から私たちを清めてくださいます。**10** 私は大学4年生頃から、自分が同じような罪を何度も犯していることに気付きました。私はそれらの罪を習慣的に犯していて、あまり注意していないことに気付きました。例えば、高ぶりについて、自分で勝手に、「この程度の高ぶりは大したことではないので、告白しなくても大丈夫である」と解釈して、自分自身を甘やかしていました。私は真剣に祈りました、「おお主イエスよ、私は罪、欠点、短所が照らされても、これらのことに余り注意していませんでした。私の不誠実の罪を赦してください」。このように祈ることによって、私は憐みと恵みを受け、徐々に目を覚ますことができました。**祈り** おお主イエスよ、私は多くの場合、自分自身の罪、欠点、短所に気づいてさえいません。私を徹底的に照らしてください。特に、野心と高ぶりが神のエコノミーにとって重大な違反であることをはっきりと理解し、徹底的に対処することができますように。そうでなければ、私は長期的にあなたの御手の中で有用になることはできません。

CP2天然の愛ではなく、神の愛に触れて、
親密な心遣いをもって、人を温め建造する

VII諸召会を顧み、聖徒たちを牧養することで必要とされるのは、供給する命の親密な心遣いです**A**聖徒

たちを牧養するとき、私たちは人を死なせるでしょう。この人を死なせることと、この実がないこととの原因は、親密な心遣いに欠けることです**1**神の言葉の乳、キリストの命の供給は、キリストにある新しい信者たちを養うのに用いられるべきであって、彼らを「煮る」のに用いられるべきではありません。**2**もし、私たちに働きを遂行する能力があっても、親密な心遣いに欠けるなら、私たちの働きに実はありません。私たちの心は広くされて、すべての信者の状態がどうであっても、彼らを受け入れなければなりません。**C**供給する命は、人を温める命です。もし私たちが命を聖徒たちに供給しようとするなら、彼らに対する真の心遣い、すなわち情感に富んだ、深く、親密な心遣いを持たなければなりません。

2コリント7:3-4 あなたがたは私たちの心の中にあり、私たちと共に死に、共に生きるに至るからです。あなたがたに対して、私は極めて大胆になっています。私はあなたがたを大いに誇っています。私は慰めに満たされ、私たちのすべての患難の中で、喜びに満ちあふれています。

もし、私たちに働きを遂行する能力があっても、親密な心遣いに欠けるなら、私たちの働きに実はありません。...私たちがどれほど実を結ぶか、どれほど多く実を結ぶかは、私たちがなし得ることにはよりません。それは私たちが親密な心遣いを持っているかどうかによります。

パウロは命を供給することで、とても人情味があり情感に富んでいました。パウロが情感に富んでいたのは、彼の心遣いがとても深く、親密であったからです。このような心遣いがなければ、パウロのように、あふれるばかりに喜ぶことは決してできません。そうではなく、私たちは冷凍庫のように冷たく、聖徒たちに対して心遣いに完全に欠けるでしょう。人を温めるところか、彼らをさらに冷やしさえするでしょう。そのような凍った状態の中では、何も成長することはできません。私たちは春の季節が来て、私たちを溶かし、私たちの命を温めることを必要とします。再び、供給する命の必要があります。あなたは供給する命が何であるか、知っているでしょうか？それは人を温める命です。人を温めることを学びなさい。これは彼らに対して親密な心遣いを持つことです。もし私たちが人に対してこのような心遣いを持たないなら、実を結ばないでしょう。もし私が聖徒たちに命を供給しようとするなら、彼らに対する真の心遣い、すなわち情感に富んだ、深く、親密な心遣いを持たなけれ

ばなりません。時には、人には愚かで、気が狂ったかと思われるほどの心遣いがなければなりません。供給する命だけが、私たちに実を結ばせることができます。実を結ぶことは供給する命の結果です。

適用: ビジネスパーソン、大学院生編

あなたは、ここで言っている愛が天然の愛でないこと注意してください。天然の愛は人を成就しないので、建造に至りません。神の愛は、真実な愛であり、人を成就し、建造します。天然の愛の中には、「かわいそうなので、代わりにしてあげる」という考えがあります。このような愛は、人を駄目にする愛です。代わりに物事をやってあげていると、その人はいつまでたってもできません。そこには成就がないので、建造もありません。子育て、召会の奉仕における若手や新人の育成、会社での後輩や部下の育成において、あなたは愛の中で、人が自分でできるように助け、成就し、建造してください。このような働きは、簡単ではありません。このために、**1**愛の労苦、**2**親密な心遣い、**3**長期的な忍耐が要求されます。しかし、このような愛の働きの故に、多くの人が残る実となり、多くの奉仕者が生み出され、建造に至ることができます。

証 私は兄弟姉妹を助けようとする時、自分が考えているように上手いかないので、嫌になりやめようと考えましたが、主の愛に触れ悔い改めて、牧養を継続できたことを証します。私の姉妹が、ある兄弟を私の勤めている会社に雇用して助けるように私に交わりました。私はそのことに反対しましたが、主との交わりの中で、主の愛に触れ、次のように祈りました、「自分自身も主の憐みの故に、今の私があるので、採用権を持っている私は、神の愛をもって兄弟を愛さなければなりません」。その兄弟の苦難を思いやり、愛を持って顧みるようにしました。採用するためには、採用要件を変える必要があったので、米国本社の上司と話し合い、それを修正しました。苦労して採用に至ったものの、その後、彼の会社でのパフォーマンスはあまり良くありませんでした。私はこの状況に大変失望しました。彼について、このようなことが何度も繰り返されました。しかし、最近、約18年経って今、驚いたことに、その兄弟は主の御前で悔い改めて、成長し始めました。ハレルヤ!

祈り おお主イエスよ、召会を顧み、兄弟姉妹を牧養することで必要とされるのは、供給する命の親密な心遣いです。親密な心遣いに欠けるなら、人は失われ、実はありません。兄弟姉妹の状態がどうであっても受け入れることができるよう、私の心を広げてください。人に対して情感に富んだ、深く、親密な心遣いを持ち、人を温めることができるように、天然の愛ではなく、神の愛で満たしてください。